その他水系流域治水プロジェクト

被害対象を減少させるための対策

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

いのちとくらしを守る土砂災害対策の推進（ソフト対策）【鹿児島県】

○地域の防災力を高める警戒避難体制の強化

・土砂災害警戒区域等の指定を進め，認知度向上を図る。
・リスク情報をより分かりやすく伝えることで地域住民の理解を深めるとともに、自助・共助を強力に支援することで、地域全体の防災力を向上
（「土砂災害警戒区域等マップ」，「河川砂防情報システム」として県ホームページに公表）

土砂災害警戒区域等の指定

土砂災害警戒区域　　：23，842箇所
土砂災害特別警戒区域：20，462箇所
（令和7年3月末時点）

土砂災害防災訓練

垂水市

志布志市

土砂災害に関する出前講座

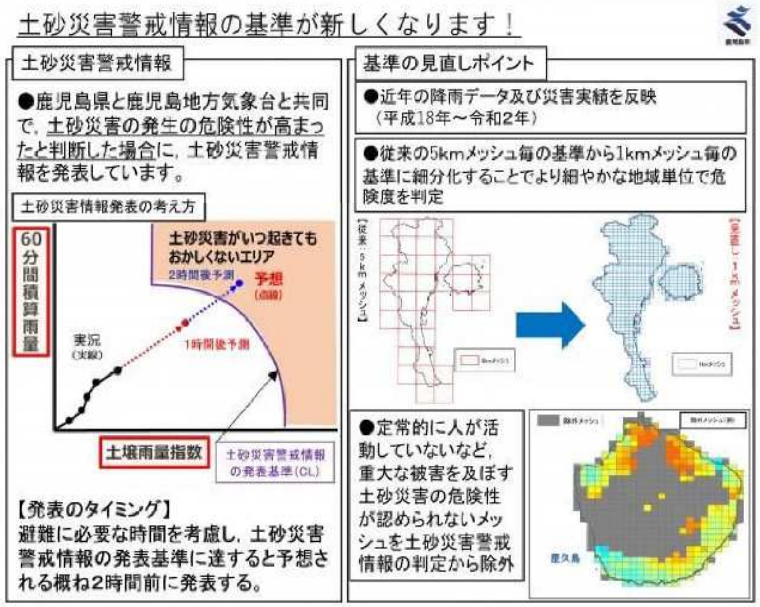
喜界町立早町小学校

南種子町立島間小学校

土砂災害警戒区域，雨量，土砂災害警戒情報などのリスク情報の提供

鹿児島県土砂災害警戒情報の発表基準の変更

○鹿児島県と鹿児島地方気象台は，土砂災害警戒情報の発表基準を見直し，令和４年１１月２４日から新たな基準により運用します。



鹿児島県河川砂防情報システム

鹿児島県土砂災害警戒区域等マップ

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工　程		
				短　期	中　期	中長期
被害対象を減少させるための対策	地域の防災力を高める警戒避難体制の強化	いのちとくらしを守る土砂災害対策の推進	鹿児島県	→	→	→

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定【南さつま市】

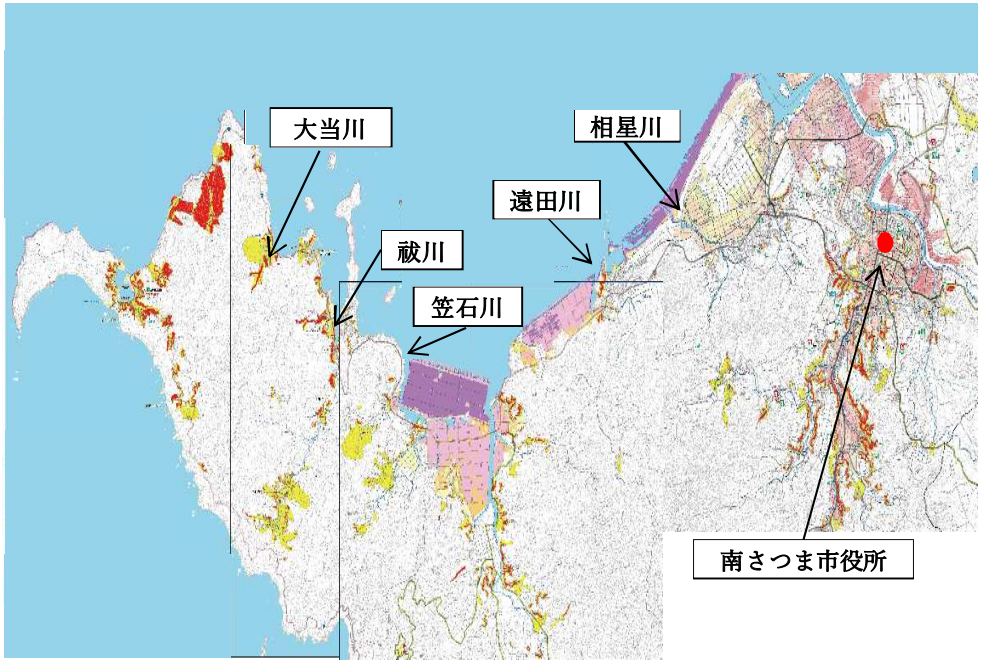
〇頻発化・激甚化する災害に対して、災害ハザードエリアにおける、開発抑制、立地適正化強化など、安心なまちづくりのための総合的な対策を講じる。

◇ 立地適正化計画の策定及び土地利用の規制・誘導

立地適正化計画の居住誘導区域内で行う　防災対策・安全確保策を定める。

「防災指針」の作成

- 避難路、防災公園等の避難地
- 避難施設等の整備
- 警戒避難体制の確保



【都市再生特別措置法】

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	土地利用･住まい方の工夫	災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定	南さつま市			

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

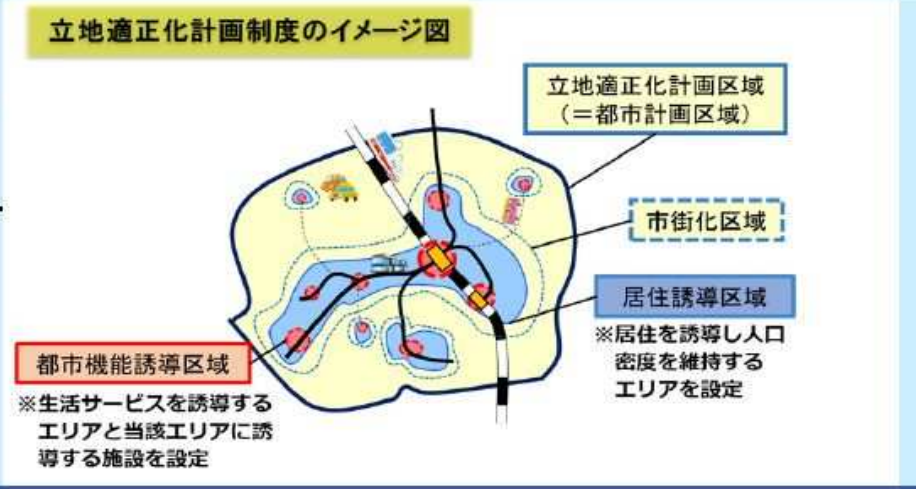
立地適正化計画の策定及び土地利用の規制・誘導【南九州市】

・災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定

（立地適正化計画）
・都市全体の観点から，居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能の立地，公共交通の充実に関する包括的なマスタープランを作成。
・民間の都市機能への投資や居住を効果的に誘導するための土俵づくり

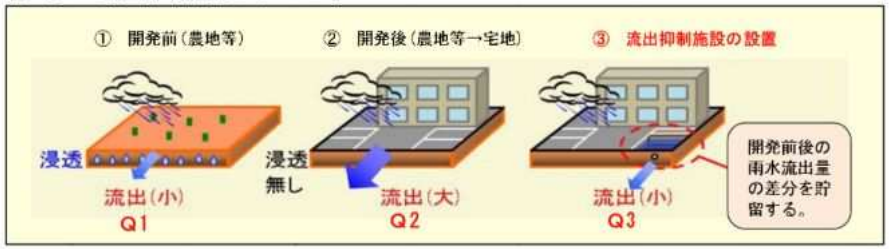
（策定内容）
・居住機能を誘導する「居住誘導区域」や，都市機能（福祉・医療・商業等）を誘導する「都市機能誘導区域」等を定める。

（防災指針）
・災害リスクを踏まえた課題を抽出し，都市の防災に関する機能の確保のため「防災指針」を定める。



・南九州市土地利用対策要綱における流出抑制の整備基準の整備に取り組む

【参考１：流出抑制施設のイメージ】



・イメージ図は鹿屋市土地利用対策要綱資料より転写

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工　程		
				短　期	中　期	中長期
被害対象を減少させるための対策	リスクの低いエリアへの誘導等	災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定及び土地利用対策要綱における流出抑制の整備基準の整備	南九州市			➡

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定【指宿市】

○立地適正化計画の策定

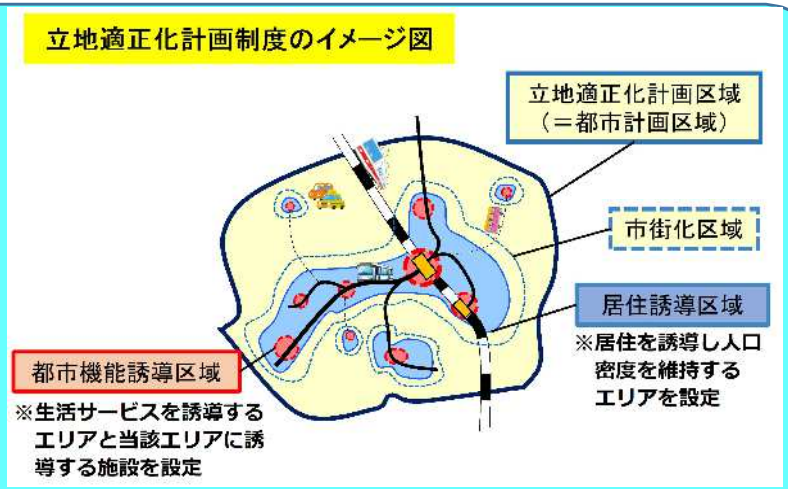
【概　要】

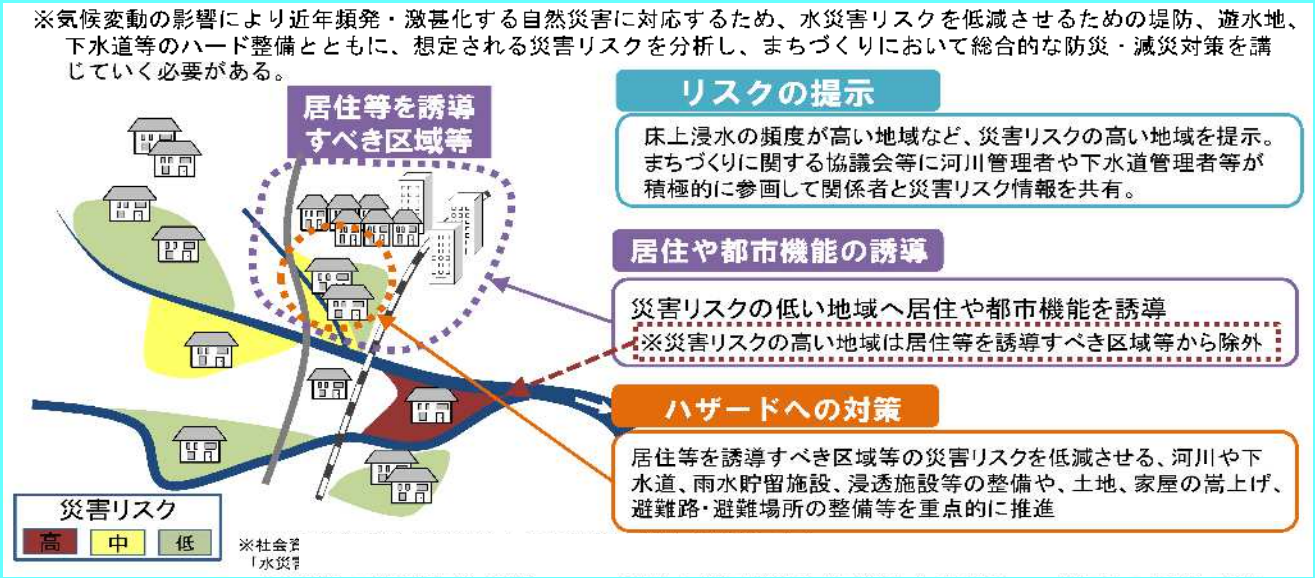
・都市全体の観点から，居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能の立地，公共交通の充実に関する包括的なマスタープラン

【内　容】

・居住機能を誘導する「居住誘導区域」や，都市機能（福祉・医療・商業等）を誘導する「都市機能誘導区域」等を定める。

・都市の防災に関する機能の確保のため「防災指針」を定め，居住誘導区域における災害リスクをできる限り回避あるいは低減させる。





区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	災害リスクの低いエリアへの居住等を誘導	災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定	指宿市			

その他水系流域治水プロジェクト

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策 ～

水位計・監視カメラ・雨量計の設置，防災情報の提供【鹿児島県】

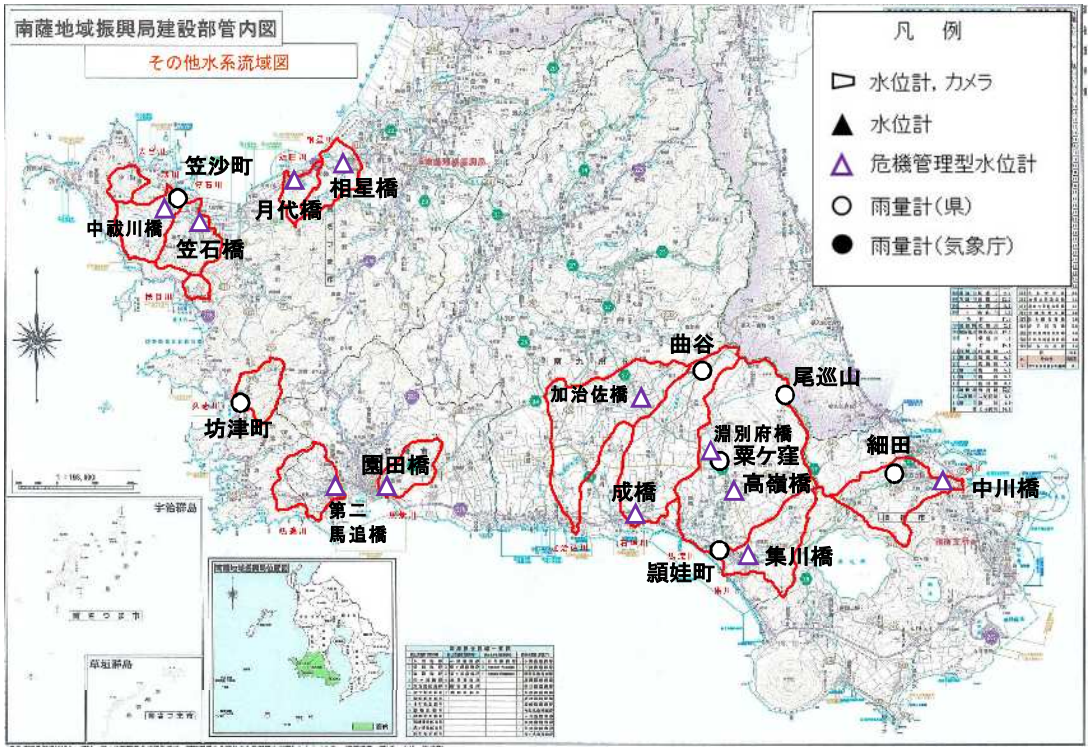
■ 各機関において，防災情報の提供を目的に，水位計・雨量計を設置しているところである。
下図のように南薩地区その他水系流域内の施設位置を示し，自分が住んでいる地区にはどのような観測機器があるか，そして，自分の身を守るための防災情報として何の情報が取得できるか，自らの自助・共助へ繋げるよう，防災意識の更なる高揚を図る。

■ また，洪水時における氾濫発生の可能性が高い箇所等の危険箇所や，地先レベルの水位・状況を把握することを目的に，危機管理型水位計も設置しており，今後，必要に応じて，追加設置を行っていく。

南薩地区その他水系内に設置されている各施設数（R６.２末時点）

管理者	水位計		カメラ	雨量計
	水位局	危機管理型		
鹿児島県	－	１２	－	７
	－	－	－	－
合計	－	１２	－	７

南薩地区その他水系流域における水位計･監視カメラ･雨量計の位置図



簡易型河川監視カメラ

危機管理型水位計

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減，早期復旧･復興のための対策	防災情報，避難体制の検討･連携強化	水位計･監視カメラ･雨量計の設置，防災情報の提供	鹿児島県	➡	➡	➡

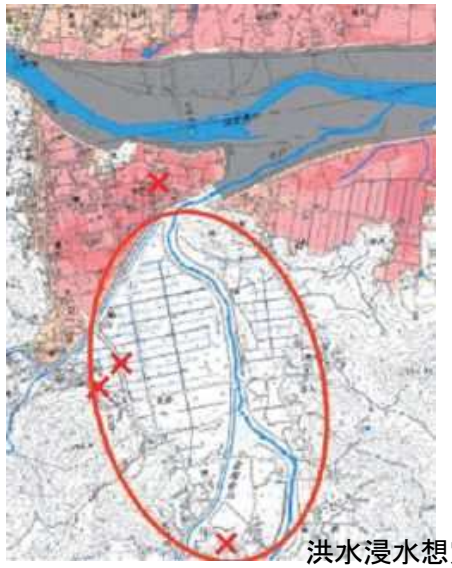
その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策 ～

洪水浸水想定区域図の作成・公表　【鹿児島県】

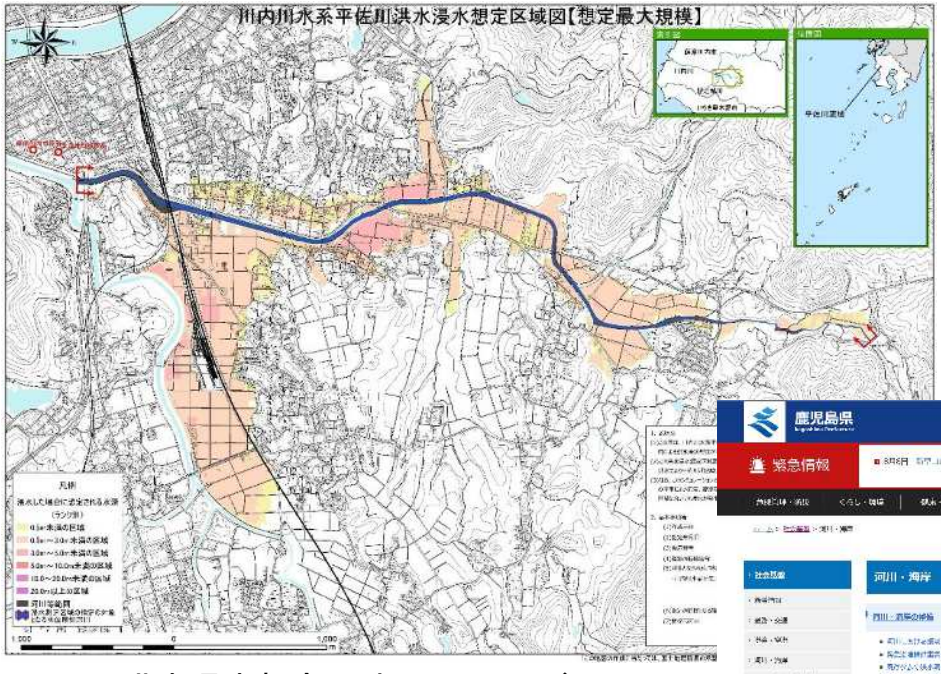
・ 令和3年の水防法の改正に伴い，洪水浸水想定区域の設定が洪水予報河川や水位周知河川等だけではなく，住家等の防御対象のあるすべての河川に拡大された。
・ 新たに設定が可能となった河川について，洪水浸水想定区域図を作成・公表し，水害リスク情報空白域の解消を図る。

洪水浸水想定区域外で浸水被害があった事例



洪水浸水想定区域の設定がなく，水害リスクが示されていないエリア（水害リスク情報空白域）

浸水想定区域図（仙台河川国道事務所）
赤×印は被害発生位置



洪水浸水想定区域図のイメージ

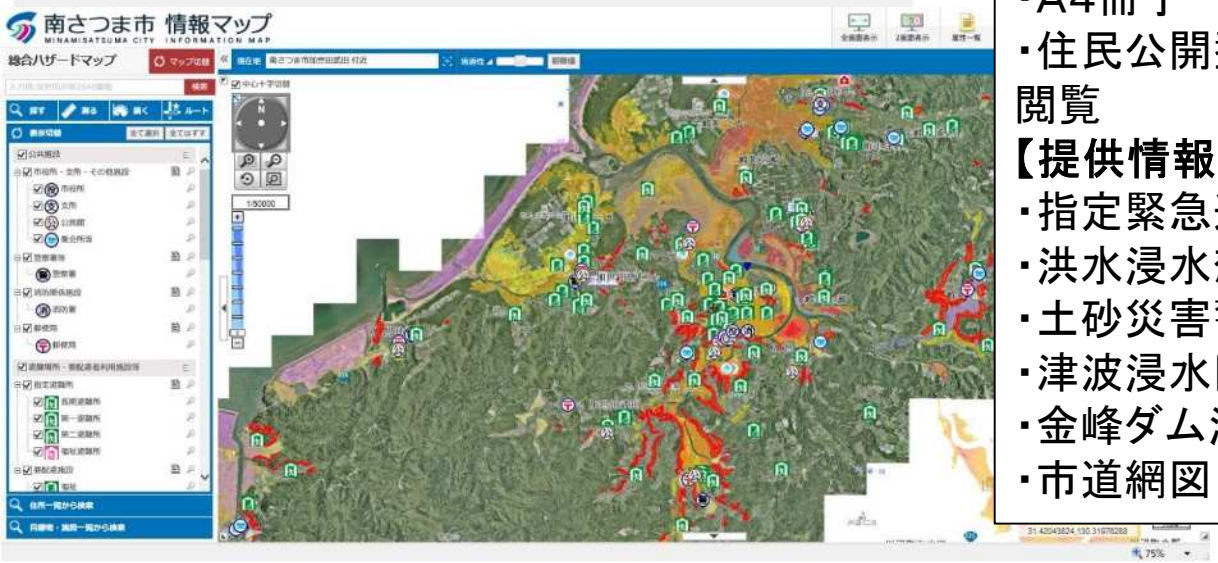
県HPで公表予定

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工　程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減，早期復旧・復興のための対策	土地のリスク情報の充実	洪水浸水想定区域図の作成・公表	鹿児島県			

その他水系流域治水プロジェクト

～被害の軽減、早期復旧・復興のための対策　ハザードマップ関連～

防災ハザードマップの作成・公表【南さつま市】



防災ハザードマップの公表

【目的】

万之瀬川水系万之瀬川、加世田川の破堤による氾濫等の浸水情報、土砂災害警戒情報や地震による津波浸水情報等と住民避難情報を市民向け公開型GISで提供することで市民サービスの向上、防災意識の向上を図る。

【公表方法】

・A4冊子　21，000部（市内全世帯配布）
・住民公開型GIS（パソコン、スマートフォン等）による閲覧

【提供情報】

・指定緊急避難場所、指定避難所
・洪水浸水想定区域
・土砂災害警戒区域
・津波浸水区域
・金峰ダム浸水区域
・市道網図　等

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	ハザードマップ関連	南さつま市情報マップの公開	南さつま市	→	→	→

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策 ～

ため池マップ公表，ため池ハザードマップ作成【南九州市】

【農業用ため池マップ】

農業用ため池マップの公表について

【経緯】

今後のため池対策の進め方に基づく緊急時の迅速な避難行動につなげる対策のひとつとして，ため池の位置を住民に知っていただくため，南九州市内の防災重点ため池マップを作成。

【防災重点ため池とは】

決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設が存在し，人的被害を与えるおそれのあるため池

（令和4年4月末時点）

農業用ため池の総数	防災重点ため池
1箇所	1箇所

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工　程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地のリスク情報の充実	ため池ハザードマップの作成・公表	南九州市	➡		

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

ハザードマップの更新，情報伝達手段の多重化への取組み【枕崎市】

【近年の災害状況】

近年は，線状降水帯による長期の大雨や局地的なゲリラ豪雨など記録的な大雨により，急激な河川の増水や低い土地での浸水被害など，これまでなかったような被害が全国で起きている。今までは大丈夫だったという意識から，なかなか避難しようとしない，あるいは避難が遅れてしまうケースが想定される。

【取組状況等】

本市では，総合防災マップを令和元年度に作成しているが，その後も土砂災害警戒区域等の追加，市内河川の水位状況による警戒態勢や避難のタイミングなどを記載したものに更新する。また，防災情報を住民に確実に伝達し，早期避難を行うため戸別受信機の設置促進，登録制防災メールの登録促進を行うとともに，避難時は避難所の混み具合がわかるシステムを活用し，混雑を避け，スムーズな避難が行われるよう周知・活用を促進する。

○土地のリスク情報の充実・提供
総合防災マップの修正・更新
（令和6年度以降）

・土砂災害警戒区域や浸水想定区域等の情報更新
・地区ごとのハザードマップ（拡大版）の作成（より見やすく，わかりやすく）
・市内河川の水位情報の周知と警戒態勢についての情報を新たに記載する。

○防災情報，避難体制の検討，連携強化

防災情報の伝達手段の多重化を図り活用を促進
・防災行政無線戸別受信機の設置促進（補助制度あり）
・登録制防災メールの登録促進（R7目標：20%以上）
・避難所可視化システムの周知，活用の拡大

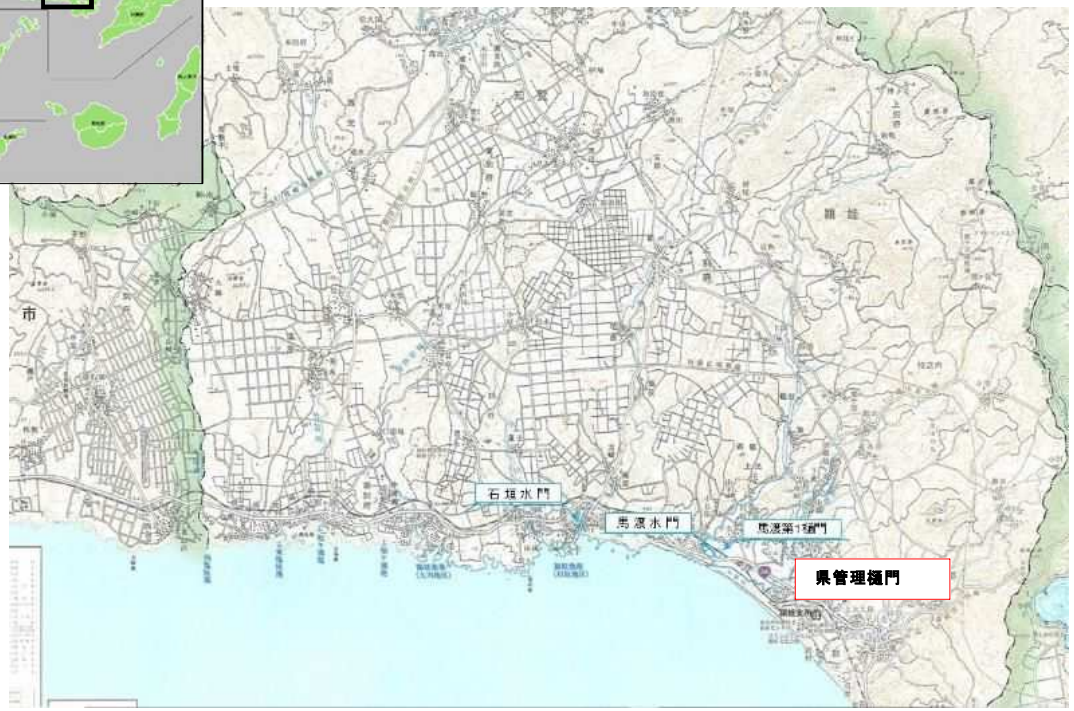
区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短 期	中 期	中長期
被害の軽減，早期復旧・復興のための対策	土地リスク情報の充実 避難所情報の充実	総合防災マップの更新 避難所可視化システムの周知	枕崎市	➡	➡	➡

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

樋門等操作の実地講習会開催【南九州市】

樋門位置図



●樋門等操作の実地講習会
　河川増水時に備えるための日常の点検と操作手法の確認を管理受託者と行う。

樋門操作講習会

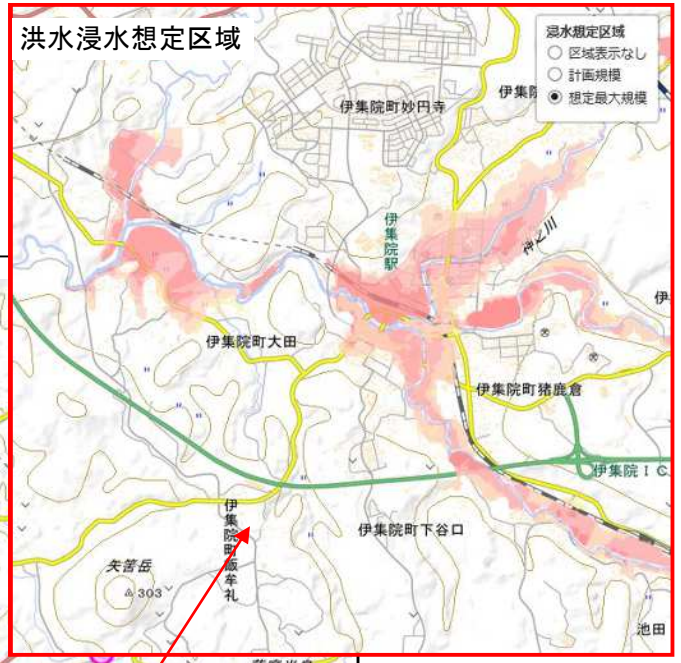
区分	対策内容	実施内容	事業主体	工　程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災情報，避難体制の検討・連携強化	樋門等操作の実地講習会開催	南九州市	■	■	■

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ずくる大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

鹿児島県水害リスクマップの運用【鹿児島県】

・鹿児島県で把握・公表している水害リスク情報（洪水浸水想定区域や浸水実績）について，地図情報上に集約化し，「鹿児島県水害リスクマップ」として県ホームページに公表（R3.2月末より運用）



洪水浸水想定区域
浸水実績

それぞれの枠内をクリックで詳細メニューの表示

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減，早期復旧・復興のための対策	防災情報，避難体制の検討・連携強化	鹿児島県水害リスクマップの運用	関係市町，鹿児島県	➡		

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ずくる大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

マイタイムラインの作成・支援　【鹿児島県，関係市，気象庁】

今後，県及び市町村の防災担当職員を対象に説明会を開催予定。
それを受けて，各市町村において地域住民対象の説明会の開催を検討してもらい住民自らが作成していけるよう取り組みを進めていきたい。

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減，早期復旧・復興のための対策	防災情報，避難体制の検討・連携強化	マイタイムラインの作成・支援	鹿児島県，関係市，気象庁	▶		

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ずくる大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

地域の防災力向上【鹿児島県，関係市】

地域の防災リーダー育成

地域防災リーダー養成講座の様子

講義（自主防災組織）

AEDを使用した心肺蘇生法訓練

モデル地区による地区防災計画作成

↑
ＤＩＧ（災害図上訓練）の様子

防災さんぽ（まち歩き）
↓

防災研修センターによる出前講座

その他の取組

- MBCﾗｼﾞｵ「防災ワンポイント」
- 防災･お天気フェア
- 防災啓発研修会　等

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧･復興のための対策	地域の防災力向上	･防災研修，出前講座等	鹿児島県，関係市	➡	➡	➡

その他水系流域治水プロジェクト

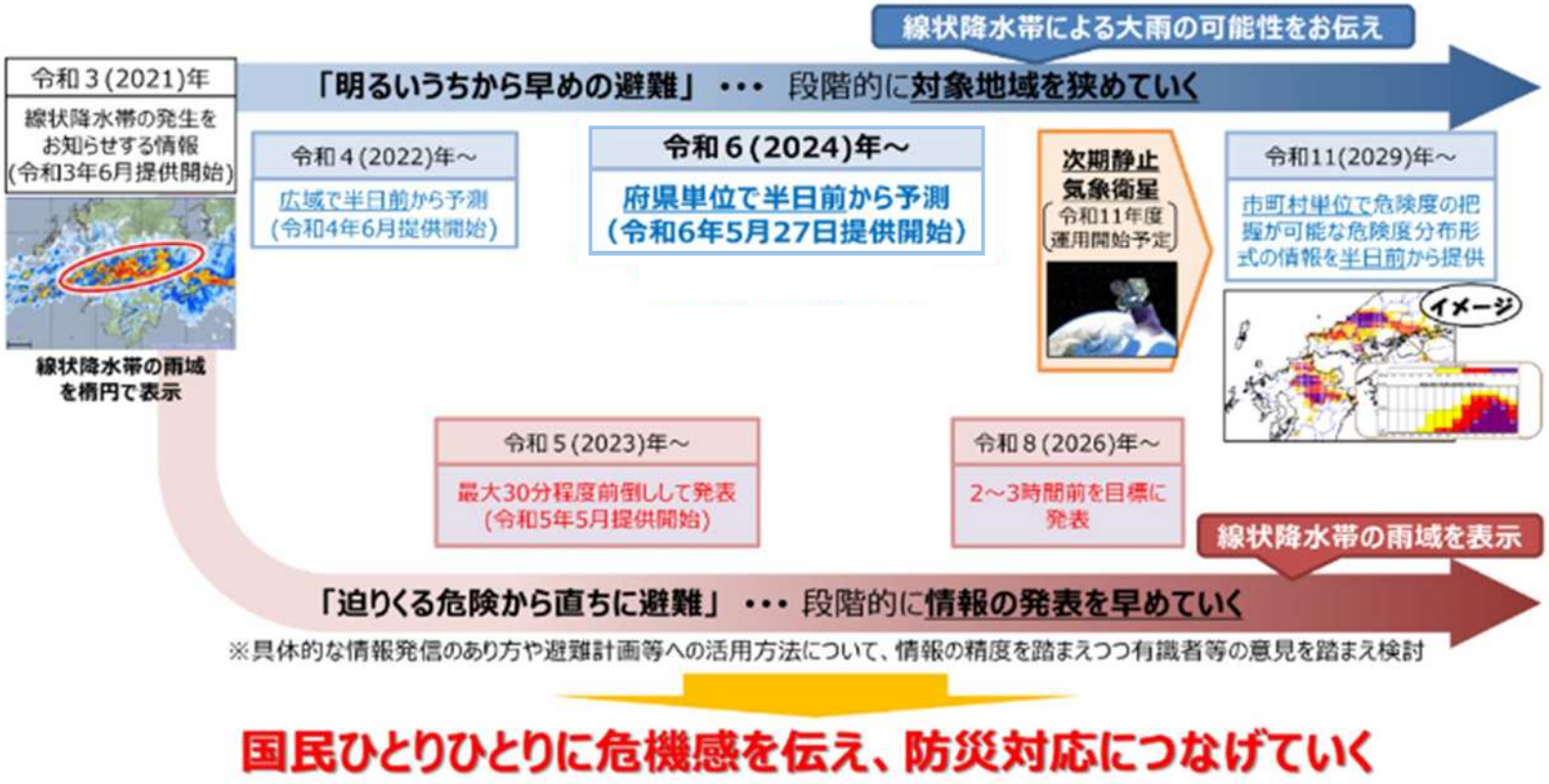
～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

気象庁HP利用促進、防災気象情報の改善【気象庁】

線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（情報の改善）

観測の強化、予測の強化の取組の成果を順次反映することで、線状降水帯に関する情報の段階的な改善を実施。
- 令和４年６月、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけ（広域を対象）を開始。
- 令和５年５月、線状降水帯の発生をお知らせする情報（最大30分程度前倒しして発表）を開始。

令和６年５月から、半日程度前からの呼びかけについて、対象地域を府県単位に絞り込んでの運用を開始。



国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく

線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ

鹿児島県（奄美地方を除く）令和6年の実績

呼びかけを行った回数　4回
線状降水帯の発生　2回
適中率　50%
捕捉率　100%

呼びかけを行った4回に対して、3回で3時間降水量最大値が100ミリを超えた

↓

呼びかけを行った場合、線状降水帯が発生しなくても大雨となったことに留意

この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災情報、避難体制の検討、連携強化	気象庁HP利用促進 防災気象情報の改善	気象庁	■	■	

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

気象庁HP利用促進、防災気象情報の改善【気象庁】

警戒レベル相当情報の体系整理（情報の改善）

◎ **シンプルでわかりやすい情報体系・名称に整理** **※令和8年度出水期からの運用開始予定**

【洪水】：氾濫による社会的な影響が大きい河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫を対象とし、河川ごとの情報とする。これ以外の河川の外水氾濫については、内水氾濫と併せて市町村ごとに発表する【大雨浸水】に関する情報とする※1。

【土砂災害】：発表基準の考え方を統一し、災害発生の確度に応じて段階的に発表する情報とする。

【高潮】：潮位に加えて沿岸に打ち寄せる波の影響を考慮し、災害発生又は切迫までの猶予時間に応じ段階的に発表する情報とする。

		洪水に関する情報「洪水危険度」 氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	大雨浸水に関する情報「大雨危険度」※1 内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫	土砂災害に関する情報「土砂災害危険度」	高潮に関する情報「高潮危険度」
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2
警戒レベル相当情報※4	5相当	レベル5 氾濫特別警報※3	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報※3
	4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
	3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
	2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報

左記情報名称のポイントをシンプルに表現
→将来的に「警戒レベル」が社会に十分に浸透した際には、以下のようなシンプルな形の名称を検討することも一案。

		洪水危険度	大雨危険度	土砂危険度	高潮危険度
警戒レベル相当情報	5相当	洪水レベル5	大雨レベル5	土砂レベル5	高潮レベル5
	4相当	洪水レベル4	大雨レベル4	土砂レベル4	高潮レベル4
	3相当	洪水レベル3	大雨レベル3	土砂レベル3	高潮レベル3
	2	洪水レベル2	大雨レベル2	土砂レベル2	高潮レベル2

・ 情報名称の最終決定は、法制度や実際の情報の運用、伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う。

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後の課題として検討。

※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

※3 洪水予報河川または水位周知河川、高潮に関する情報の対象沿岸において氾濫の発生を確認した場合、その旨を氾濫特別警報または高潮特別警報の文章情報等に明記。

※4 警戒レベル相当情報とは、国・都道府県が発表する防災気象情報のうち、居住者等が自ら行動をとる際の判断に参考となる防災気象情報と５段階の警戒レベルとを関連付けるものである。警戒レベル相当情報が発表されたとしても必ずしも同時刻に同じレベルの避難情報が発令されるものでない。

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災情報、避難体制の検討、連携強化	気象庁HP利用促進 防災気象情報の改善	気象庁	➡	➡	

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

出前講座・防災学習の実施【気象庁】

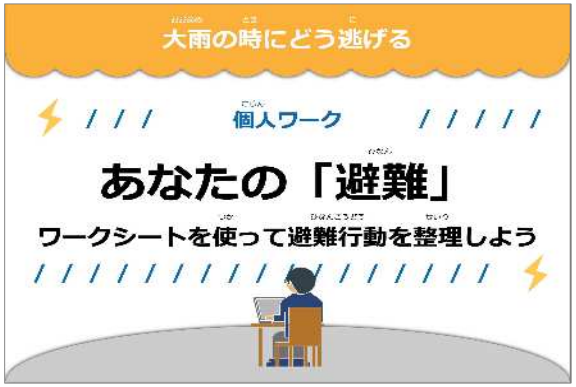
気象庁 eラーニング教材「大雨のときにどう逃げる」

- ○ 新しい生活様式でのオンライン学習に対応（教材は気象庁HPで公開）
- ○ マイ・タイムラインの事前学習に最適
- ○ 個人学習だけでなく、自治会や学校などでも活用できる教材
- ○ 難しく考えず、気楽に取り組むことが可能

アドレス
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jma-el/dounigeru.html

「自らの命は自らが守る」
基本の知識を動画で学ぶ

約17分



自分の避難行動を
ワークシートに整理

約30分

一歩
進んで

みんなで意見交換して
自分の避難を再確認

約30～40分

1時間の学習にピッタリ

Web会議でも実施できます

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短 期	中 期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災学習の推進	出前講座・防災学習の実施	気象庁	■	■	

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

出前講座・防災学習の実施【気象庁】

防災教育支援ポータル
－　１０分で防災　－

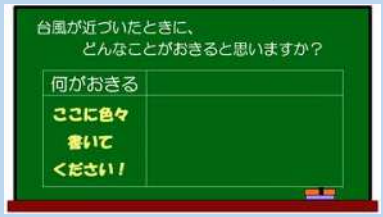
福岡管区気象台HP（教材はこちら）
https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/chosa/education/10mb.html

10分で防災

- ○ **短時間**で命を守る防災の学習
- ○ **子どもたち自身**で考え、話し合う機会をつくる
- ○ 災害を自分のこととして考える**「きっかけ」**となることを期待
- ○ 難しく考えず、**気楽に**取り組むことが可能
- ○ **４現象**（台風、大雨、地震・津波、火山）の教材を用意

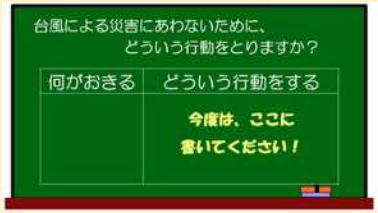
ステップ１　考える①

ワークシート



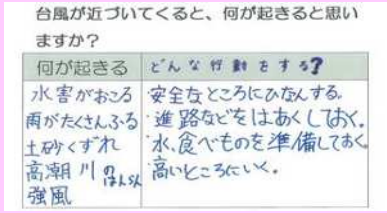
ステップ１　考える②

ワークシート



ステップ２　話し合う

他人の考えを聞いて、新たな「気づき」を生み出す



ステップ３
振り返りとまとめ

通学路のそばを流れる小川。用水路や道路のマンホール。

普段は何でもない場所が、突然の大雨で、命を落とす場所に変わることがあります。「自分の身は自分で守る」という意識を身につけましょう。

起きる災害を考える → 自分の行動を考える → 行動を話し合う → 各班の意見をみんなで聞きましょう

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工　程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災学習の推進	出前講座・防災学習の実施	気象庁	■	■	

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ずくる大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

地域の防災力向上【鹿児島県，関係市】

個別避難計画作成

・　市町村においては，災害対策基本法に基づき，避難を支援するための避難行動要支援者名簿（以下「名簿」という。）の作成が義務づけられており，本県では，全市町村が作成済となっている。

・　当該名簿については，本人の同意を得るなどし，市町村から消防機関や自主防災組織等へ提供できることとなっており，市町村において取り組んでいるところ。

・　また，市町村は，名簿情報に係る避難行動要支援者ごとに，個別避難計画を作成することとしており，令和４年４月１日現在の作成状況は，対象者全員が８団体，一部の対象者が３１団体，未作成が４団体となっている。

・　県では，引き続き，市町村に避難行動要支援者への対応に関する取組を紹介するなどして，名簿情報の提供や計画作成を促進してまいりたい。

・　これらを踏まえ，市の努力義務となっている個別避難計画の作成について，流域治水プロジェクトにおいても，あらゆる関係者と共に議論していく必要がある。

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工　程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	災害時における要配慮者への支援	・個別避難計画策定支援	関係市			

その他水系流域治水プロジェクト

～被害の軽減、早期復旧・復興のための対策　水防災意識の醸成～

総合防災訓練の実施・防災研修会の開催【南さつま市】

防災訓練の実施

【目的】
南さつま市地域防災計画に基づき、防災関係機関と地域住民が一体となった訓練を実施し、発災時の応急対応、住民の防災意識の高揚を図る。

【訓練場所】
毎年度　９月開催　加世田地域、笠沙地域、大浦地域、坊津地域、金峰地域の隔年開催

【参加団体】
市、消防、消防団、地域住民、市内事業所、警察署、自衛隊、関係機関　等

防災研修会の実施

【目的】
防災意識の普及啓発と自主防災組織の育成･強化を図る。毎年度1～2回開催

市内:82組織　組織率:89．3%

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工　程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧･復興のための対策	水防災意識の醸成	･総合防災訓練の実施、自主防災会等を対象とした研修会の開催	南さつま市	➡	➡	➡

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

地域住民における自主防災組織等の強化【南九州市】

地域の課題
人口減少，高齢化

近年の災害
激甚化，長期化

地域防災力の向上（自助・共助）
大規模災害が発生した場合，いかに地域で対処するか。

【取組状況】
毎年，6月に自主防災組織リーダー育成研修会（地区防災計画作成等）を，9月に消防団，自主防災組織，その他関係機関と合同の市総合防災訓練を実施。

自主防災組織リーダー育成研修会

市総合防災訓練

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災情報，避難体制の検討・連携強化	地域住民における自主防災組織等の強化	南九州市	■	■	■

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

避難態勢の強化【南九州市】

地域の課題
人口減少，高齢化

近年の災害
激甚化，長期化

地域防災力の向上（自助・共助）
大規模災害が発生した場合，いかに住民の安全安心を確保するか。

【取組状況】
災害時には市内各地域に避難所を開設するが，定員を満たし避難できない事例があったことから，開設状況や避難者数をリアルタイムにネット環境にて確認できるシステム構築。
　効果としては，最寄りの避難所確認や，避難所の増設時期の見極めなどが期待できる。

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難所開設の迅速化	避難所開設報告システムの構築	南九州市	■		

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

自主防災組織による地域の自助・共助の推進【枕崎市】

○　地域の防災力を高める警戒避難体制の強化（地域の防災力向上）

実働する自主防災組織を目指して，自主防災訓練の実施を推進。⇒住民の自助・共助を強化することにより，地域全体の防災力，避難体制を向上。

- 県防災アドバイザーによる出前講座の活用
- 自主訓練等の準備・計画段階での市職員の派遣
- 地区防災計画の作成に向けて市からの助言等
- 地域防災リーダーの育成
- 市防災研修会による知識の習得と災害に対する備えの実践
- 児童生徒に対する防災教育の実施

枕崎市内の自主防災組織結成数等（令和5年4月1日時点）

- **結成公民館等　68公民館　未結成公民館数　6公民館**
- **自主防災組織の組織率　97.61%**（市全世帯に対する結成地域の世帯割合）
- **馬追川流域にある自治公民館数　4公民館**
- **尻無川流域にある自治公民館数　5公民館**

実動する自主防災組織を目指して ⇒ 自主防災訓練の促進，県防災アドバイザーの派遣，地区防災計画の作成支援等

小中学校への出前講座の実施 ⇒ 教育委員会との連携し，防災に関する授業を組み込めないか。「避難訓練等の講話」や「備蓄食料等提供時の講話」など，防災に対する意識を高める取組みを行っていく。

河川流域の浸水災害等を想定した避難訓練を建設業組合，電気業組合，医師会等，関係機関との連携を図った訓練を実施する。

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工　程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減，早期復旧・復興のための対策	防災情報，避難体制の検討・連携強化	地域住民における自主防災組織等の強化	枕崎市	→	→	→

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

避難所の安全性の検証及び避難所機能の整備【枕崎市】

○　本市の避難所は，第１避難所8施設，第2避難所10施設を指定しているが，施設の老朽化により大規模改修をする時期に差し掛かっている。このため，通常よく使用する第１避難所については，この改修に合わせて防災機能の充実を図り，施設の安全性と避難所としての機能を高め，より快適に避難できる環境を整備する

【立神センターの改修】

トイレの洋式化

スロープ・
手すり設置

非常用電源の設置

シャワー室の設置

【 第１避難所の改修 】

第１避難所8施設のうち，5施設は地区公民館である。その中の立神センターは，馬追川流域に位置しているが，令和3年度に改修工事を行い，非常用電源として発電機の設置，段差の解消，トイレの洋式化，防災備品等を収納するスペースの確保などを行った。

令和4年度は市民会館の改修工事に合わせて防災機能の充実を図っている。このように，第１避難所においては，避難者が安心して使いやすい施設にするため，施設を所管する部署と協議を重ね，年次的に改修を行っていく計画である。

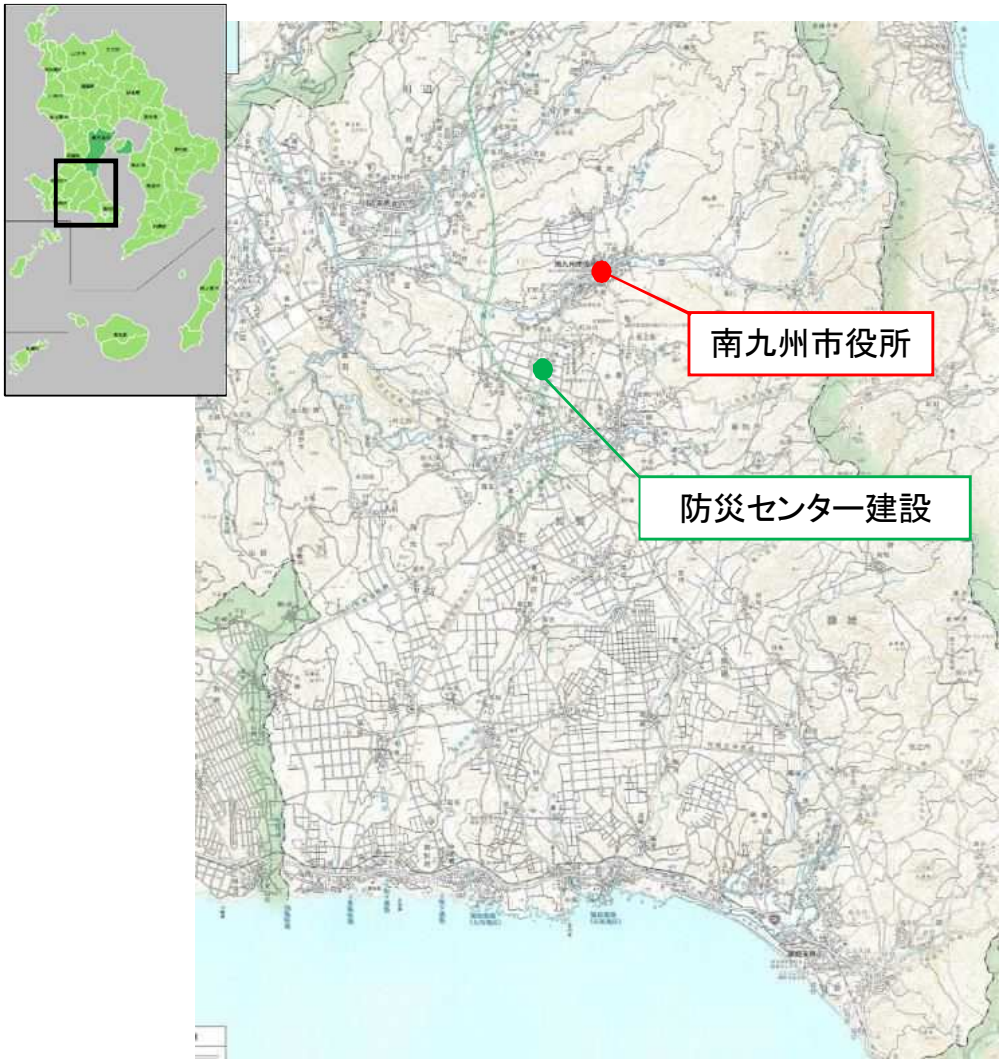
防災用備品収納スペースの確保

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工　程		
				短　期	中　期	中長期
被害の軽減，早期復旧･復興のための対策	防災情報，避難体制の検討･連携強化	避難所の安全性の検証及び避難所機能の整備	枕崎市	→	→	→

その他水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え，水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

防災センターの建設【南九州市】



防災センターの建設

【目的】

集中豪雨や台風などの災害が激甚化，頻発化する中，南九州市の防災に関する中核拠点として，地域防災力の向上を図るとともに，発災後の住民の速やかな安全の確保，及び災害対策対応力の強化など災害に強いまちづくりを推進するため整備を進める。

【機能】

・防災会議室，研修室兼緊急避難所，備蓄倉庫，防災倉庫等

【建設予定時期】

・令和7年～8年
（地質調査・設計・建築）

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短 期	中 期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	地域防災力の向上 （災害拠点対策施設整備）	防災センター建設	南九州市	■		